

(3)トレーサ試験

ボーリング孔に食塩水を圧入し、堤体表面を観察すると共に、クラック湧出水の電気伝導度を計測した。B-1 孔では堤体表面に滲出水は認められなかったが、B-2 孔では、直下のコア抜き孔や周辺クラックから高濃度の食塩水が滲出た。

(4)コアドリル調査

コアドリル調査は B-2 孔直下の No.1 と常用洪水吐下流の No.2 の 2 箇所(図 2.1 参照)で、クラックを抜き取るように実施した。コア写真等を以下に示す。



写真 2.7 コアドリル No. 1

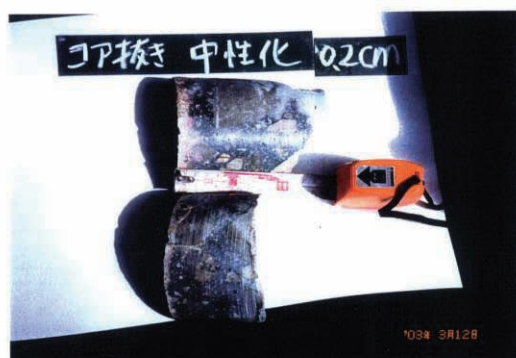


写真 2.8 コアドリル No.2

(5)クラックの水質調査

採水位置を図 2.4 に、トリリニアダイアグラムを図 2.5 に、ヘキサダイアグラムを図 2.6 にそれぞれ示す。クラックからの漏水は、監査廊排水孔の水質と類似している。

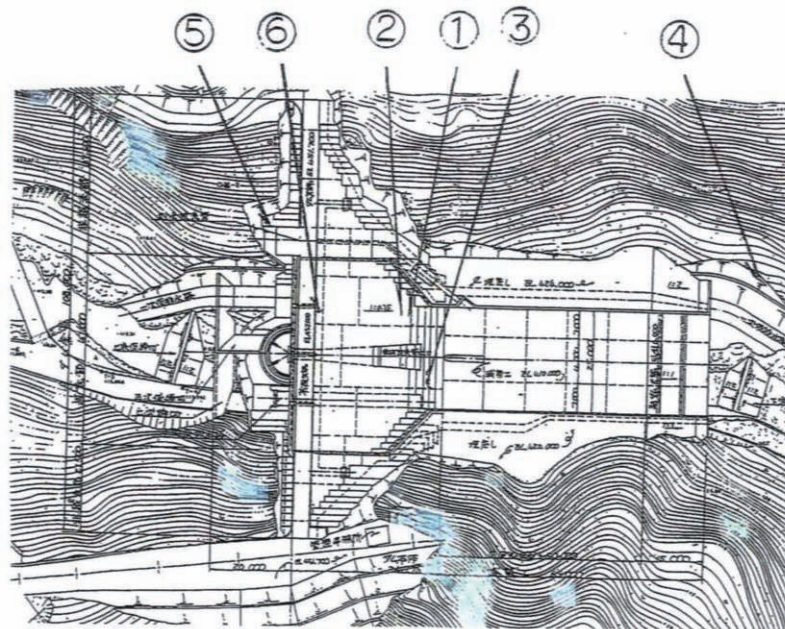


図 2.4 採水箇所位置図

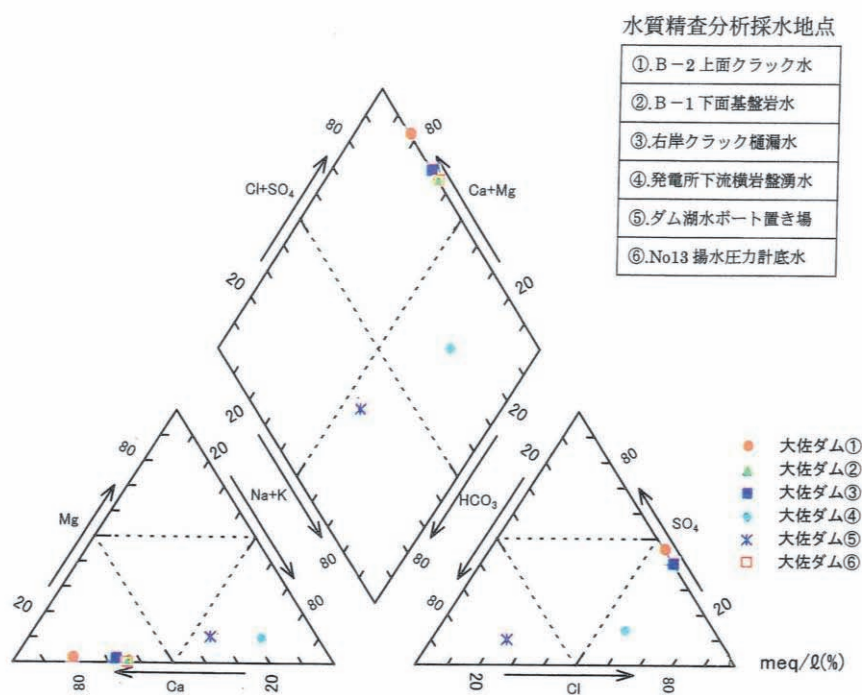


図 2.5 水質調査結果 トリリニアダイアグラム

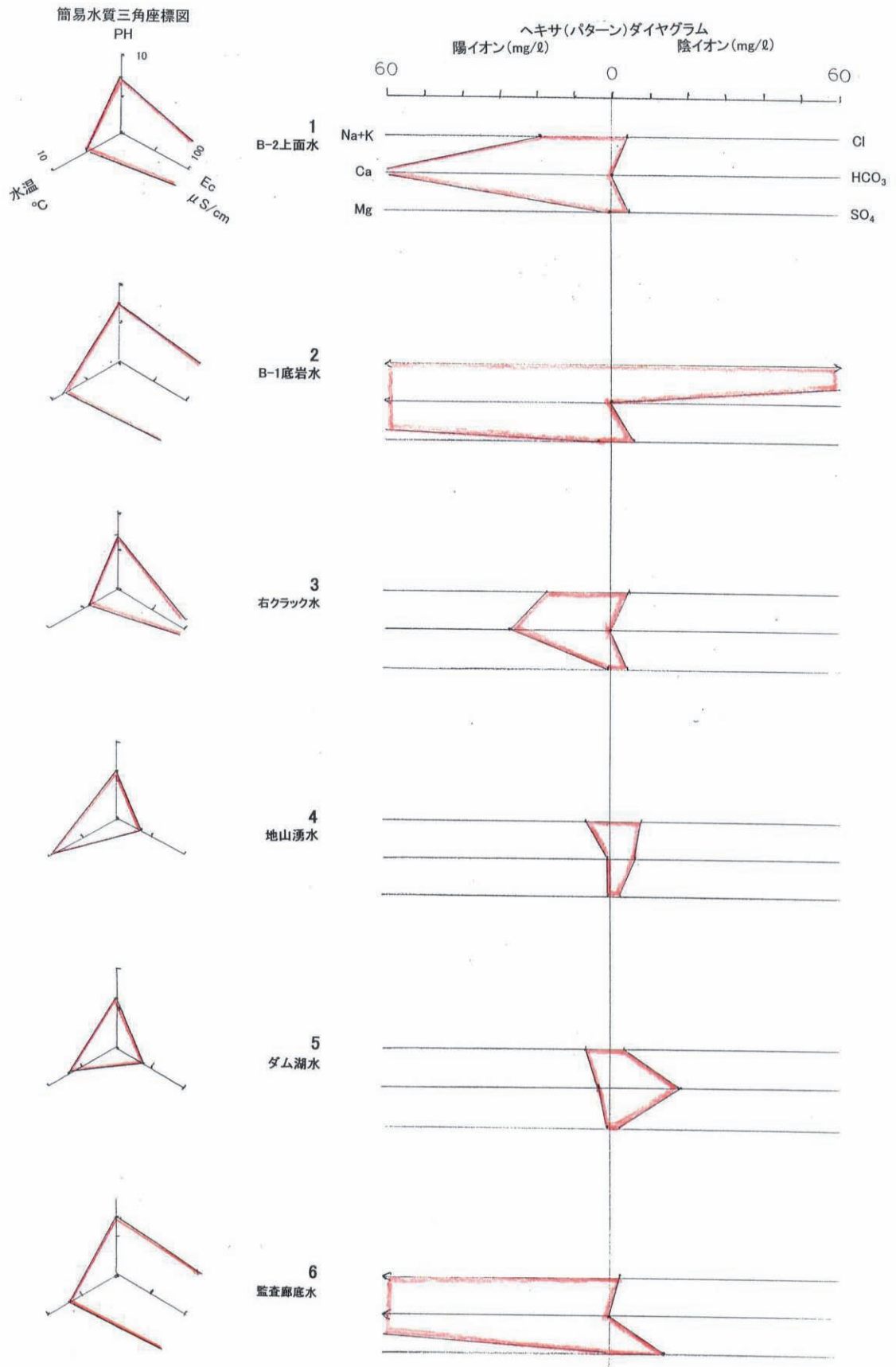


図 2.6 水質調査結果 ヘキサダイヤグラム